

つちおと



5/23 気仙沼湾にかかる横断橋と絆

令和2年度末開通予定の気仙沼道路のうち、「(仮称)気仙沼湾横断橋(延長1.3km)」の完成に向けた最終工程として、5月23日から約1か月かけて前後の桁が連結されます。今後、橋桁の裏側に国際信号旗で漁船に向けた気仙沼市のメッセージがペイントされる予定です。



(橋桁吊上作業)

6/6 大島WTが本オープン ～ しまの魅力を発信 ～

6月6日、浦の浜に整備された「大島ウェルカム・ターミナル」が本オープンしました。この日に合わせ、農水産物や手工芸品などの産地直売店舗も開始され、昨年オープンしている野杜海(のどか)と合わせ大島の観光拠点として交流人口の拡大や、地域経済の活性化などに期待が高まっています。また、敷地内には2008年に国際宇宙ステーション・日本実験棟「きぼう」に持ち込まれ戻ってきた種から発芽した「宇宙桜」が植樹されています。



野杜海

ウェルカム・ターミナル



テラス



宇宙桜(写真中央)



産直店舗(6月6日にオープン)



3月14日にJR気仙沼線の松岩駅～不動の沢駅間において、BRT専用道の供用が開始され、南気仙沼駅が移設、赤岩港駅が新設されました。



2月24日に気仙沼中央IC～気仙沼港IC間が開通しました。気仙沼港ICは赤岩港の水産加工団地に直結しており、三陸沿岸道路は気仙沼の水産業復興にも貢献しています。



4月8日、国道45号線の切り替えが完了し、南三陸ハマレ歌津へのアクセスが向上しました。かもめ館2階からは伊里前湾を見渡すことができ、眺めのよいオープンな空間が魅力です。



隣接地に道の駅及び震災伝承施設が2021年秋オープン予定
南三陸町では、震災伝承施設の名称をHPにて募集中

仙台から八戸にかけて太平洋沿岸を結ぶ延長359kmの自動車専用道路、三陸沿岸道路について、2020年度内全線開通を目指して整備が進められています(宮城県内の計画延長126km, うち117kmが供用中)。
またJRのBRTでは、専用道路化・新駅設置が進められ、気仙沼線柳津～気仙沼間(55.3km)の専用道率は現在84%(目標約9割)となっており、気仙沼から柳津まで100分強で結ばれています。

2020年度内 開通予定

2020年2月 開通

2020年内 開通予定

2021年春に 本設オープン予定

2020年内 開通予定

現在の開園範囲

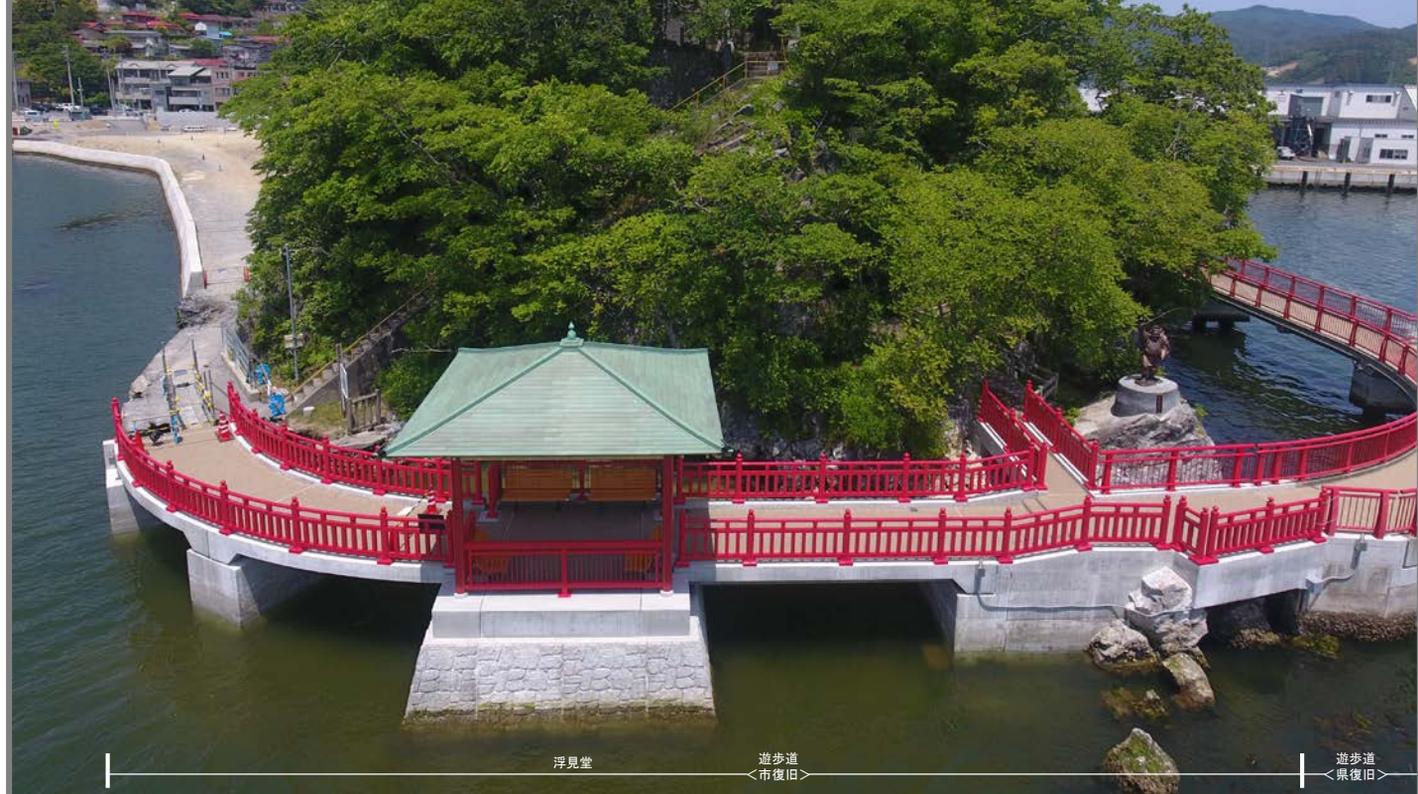
内湾地区で昨年完成した気仙沼スローストリート「結」等に新しい店舗が順次開店しています。また、近くには復旧した浮見堂や遊歩道、シンボルである恵比寿像もあり、今後の賑いが期待されます。

2月27日、南三陸町震災復興祈念公園の二次開園により、開園範囲が拡がりました。今秋に全面開園が予定されています。

三陸沿岸道路フルインターチェンジ
三陸沿岸道路ハーフインターチェンジ
JR大船渡線
JR気仙沼線
専用道設置駅
一般道設置駅

進む震災復興【気仙沼市内湾地区海上遊歩道・浮見堂】

～ 内湾のシンボルが復活 ～



浮見堂

遊歩道
＜市復旧＞遊歩道
県復旧

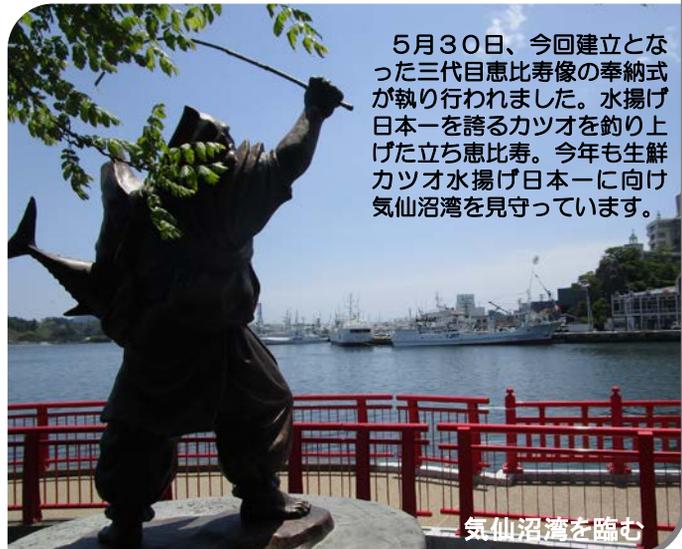
気仙沼内湾奥には神明崎が張り出しており、五十鈴神社や猪狩神社が建っています。

昭和2年に気仙沼湾が日本百景に入選したことを記念し、昭和7年に地元魚町の青年有志により神明崎には遊歩道、四阿(浮見堂)、立ち恵比寿像が建立、さらに平成10年に魚浜公園側から浮見堂に至る約120mの遊歩道が宮城県にて整備され、神明崎を周回できる内湾地区海上遊歩道ができあがりました。この海上遊歩道は市民の憩いの場となる他、観光資源としても活用されていましたが、東日本大震災により大きな被害を受けました。

復興にあたり気仙沼市は、南町・魚町地区から神明崎を通り、魚浜公園に至る遊歩道を計画しました。内湾地区海上遊歩道も当遊歩道計画の一部を構成することとなり、平成30年秋より復興交付金等を活用して、県と市による復興事業が進められております。

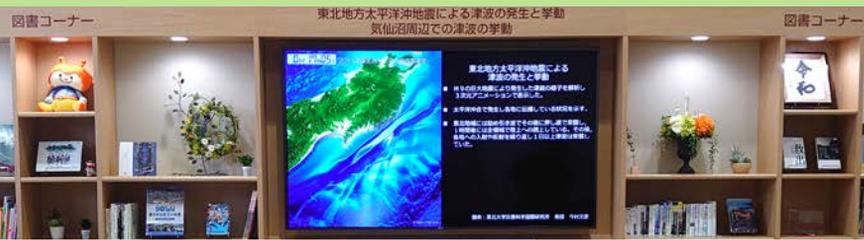
県管理部分の海上遊歩道は、浮見堂から魚浜公園までの約126m。事業費は約1億6千万円。市管理分の海上遊歩道は、神明崎にある浮見堂前後の約30m。事業費は約2億8千万円。新たな遊歩道の幅員は1.2mから3.0mに拡がり、浮見堂の床面積も13m²から16m²と一回り大きく拡張されました。浮見堂には寄付金約2千5百万円が、三代目となる立ち恵比寿の建立には支援金約5百万円が活用されております。県事業箇所は令和元年11月に完成し、市事業箇所分については令和元年6月に着手、令和2年5月末に完成しました。

気仙沼市観光課からは、「新たな浮見堂は三代目恵比寿像と共に気仙沼湾のシンボルとして市民に親しまれていくことと、たくさんの観光客の方にお越しいただくことを願っております。」と抱負をいただきました。



5月30日、今回建立となった三代目恵比寿像の奉納式が執り行われました。水揚げ日本一を誇るカツオを釣りに上げた立ち恵比寿。今年も生鮮カツオ水揚げ日本一に向け気仙沼湾を見守っています。

気仙沼湾を臨む



気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館は、新型コロナウイルスの影響により一時閉館されていましたが、対策を施された上で、6月2日(火)から再開されています。閉館中に一部リニューアルも行われており、展示内容の充実が図られています。

① 図書コーナー

寄贈を受けた「東北地方太平洋沖地震による津波の発生と挙動・気仙沼市周辺での津波の挙動」をデジタルサイネージで自動再生。

② 展示コーナー

寄贈を受けた「南気仙沼駅付近から亀山(大島)を望む」復興の歩みの定点観測パノラマ写真の展示及び「海と生きる」をテーマに、気仙沼の海・人・生業がイメージできる大型写真をプロジェクターで投影。



◆支所長コラム

年明けから影響が出始めた新型コロナウイルス感染症により、気仙沼地域でも待ち望まれていた大島ウェルカムターミナルや、「結(ユウエル)」を含めた内湾地区のまちびらき等観光の拠点施設のオープンや各種式典が中止となるなど、特に観光業、基幹産業である水産業に大きな影響がでております。ここは我慢の時期一人一人が感染対策を意識し乗り越えていく必要があります。

東日本大震災の発災から今年度で10年目を迎え、復興・創生期間の最終年度となりました。復興期間の節目となる今年度は、復興事業の着実な遂行や、復興・創生期間後の復興体制整備、施策、財源など着実に検討を進める必要がある重要な1年と認識しております。支所は引き続き、復興事業の総仕上げとして関係機関と連携した事業進捗の確認や、地域の課題、要望を丁寧に拾い上げ調整すること。また、この「つちおと」を通し地域の復興状況をしっかり伝え、知っていただく取り組みを職員一丸となって取り組んでまいりたいと思います。外は新緑がまぶしく爽やかな青空が広がっており、支所の前の小学校からも子供たちの元気な声が聞こえ始めました。まだまだ気は許されませんが少しずつ地域の活気、元気が戻ることを願っています。(高信)



花を見ると気持ちも明るく元気になるよ!



これまでに発行した「つちおと」は、復興庁ホームページで御覧いただくことができます。

復興庁HP (<http://www.reconstruction.go.jp/>) ⇒ 宮城復興局 ⇒ 気仙沼支所だより「つちおと」

【編集後記】

◆少し前まで肌寒い春でしたが、だんだんと暑くなってきました。朝は冷えるので寝冷えしないように気を付けましょう。

「つちおと」発行元(お問い合わせ先)

復興庁 宮城復興局 気仙沼支所
電話:0226-23-5301, FAX:0226-23-5310